



尾久八幡

令和6年度4月号
令和6年4月13日発行
荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

4月9日(火)、第62回入学式が行われ、161名の新入生が入学しました。これにより、本日より本年度の3つの学年の生徒が揃い、令和6年度の尾久八幡中学校がスタートしました。これから1年間、八幡中学校の教育の充実につとめてまいります。保護者、地域の皆様には、ご理解・ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



さて、年度のはじめに際し、本年の本校の教育について、入学式の式辞を抜萃し、お伝えいたします。

* * * * *

ご入学おめでとうございます。私は、入学した皆さんには、こうあってほしいという願い、思いがあります。それは、皆さんの“幸せ”です。これからの3年間、皆さんが明るく楽しく、中学校生活を豊かなものにすることで、今を幸せに過ごしてほしい。しかし、それだけでなく、将来も幸せであってほしい。3年後に中学校を卒業し、進学先で、さらに社会に出て働く先で、その社会の一員として幸せにやっていってほしいと願っています。そのために、義務教育最後であるこの3年間は、**社会で通用する力を身につける場**でもあります。本校の校訓を「礼節、品格」とするの、そうした力をつけてほしいからです。これからはじまる中学校生活を、そうした充実したものにしていってください。そのために心掛けてほしいことを、2つお話しします。

一つは「**自ら学ぶ**」ということです。みなさんは、一人一人それぞれの良さ、限りない可能性をもっています。しかし、それも磨くことを怠れば、埋もれていってしまいます。それを伸ばすためには、まず自分から物事に進んで取り組むことが大切です。自分から学ぶ、人から学ぶ、さらに、体験を通して学ぶことで、確かな学力を、そして、生涯にわたって通用する、そうした「自ら学ぶ」姿勢を身につけてほしいと思います。

二つ目は、**人と「関わる」**ということです。人は誰しも夢や希望、そして悩みをもっています。また、それぞれに個性があります。その上で、共に同じこの社会の中で生活をしています。ですから、自分だけのことを考えては、うまくいくはずありません。他の人を認め、互いに支え合うことが大切なのです。それは、小さな社会ともいえる学校でも同じです。誰かが困ったり、悩んだりした時、周りにいる友達が、思いやりの心を持ち、助け励ますことができれば、どんなに素晴らしいことでしょう。

「自ら学ぶ」、思いやりをもって人と「関わる」、この2つを心にとめ、中学校生活を輝くものにしていってください。

* * * * *

裏面に本年度の学校経営方針についても示させていただきましたので、ご一読ください。今年一年間、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

令和6年度 学校経営方針

荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

I 本校の教育目標

夢や目標をもって「主体的に活動する」ことができる、知・徳・体の調和のとれた自ら学び、思いやりのある、たくましい生徒を育成する

- 自ら学び、自ら考え、正しく判断し、実行する生徒
- 自他を尊重し、協力し合える、心豊かな生徒
- 心身ともに健康で、ねばり強くやり抜く生徒

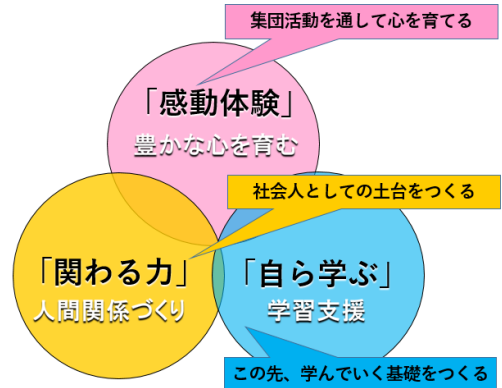
II 校訓

「文武両道」「礼節・品格」

III 尾久八幡中の教育

「生徒を幸せにする学校（今を、そして将来にわたって）」

— 社会の一員としての力をもった、人間性豊かな人に —



IV 本年度の重点目標

「確かな学力の定着・向上を図るとともに、豊かな人間性を育成する。」

- 1 学び方指導と家庭学習により、自ら学ぶ力を身につけさせることで、学力の定着・向上を図る。
- 2 ICT機器の活用等により、教師がその指導力を改善することで、学習指導の充実を図る。
- 3 授業活用や読書啓発活動により、学校図書館活用を推進することで、学習意欲の向上を図る。
- 4 外部人材等の活用により、指導内容を高めることで、教育活動の充実を図る。
- 5 文化的活動や奉仕活動、職業体験等の充実により、社会性を育成することで、豊かな人間性を育成する。

V 指導の重点

上記の重点目標について、学校パワーアップ事業を有効に活用しながら、組織的な実践により具現化を図る。

1 学びの“場”を保障する学校づくりで、確かな学力を（「学力向上マニフェスト」等を活用して）

① 学び方指導と家庭学習の定着

- ・学校及び家庭での学習の仕方指導や、「家庭学習ノート」等による学習支援により、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図る。
- ・「あらかわ寺子屋」事業や各種検定の推奨により、主体的に学ぶ姿勢の醸成、学力の向上を図る。

② 指導力の向上と指導方法の改善

- ・デジタル教科書やタブレットPC等のICT活用の推進により、指導力の向上を図る。
- ・「調べる学習コンクール」「ビブリオバトル」等、図書館活用による読書活動推進、授業改善を図る。

③ 理科教育の充実

- ・実験・観察活動の充実、ICT機器の活用、「サイエンス講座」等外部講師の導入等により、生徒の興味関心を高めながら、実体験を通して理解を深める、理科教育の充実を図る。

2 関わりを大切にする学校づくりで、社会の一員としての力を（「想像力あふれる教育の推進」等を活用して）

① 人間力を育てる指導の充実

- ・Q-U を活用した人間関係づくり支援の充実や道徳授業の改善等により、互いを尊重する姿勢と規範意識を育てる教育の充実を図る。
- ・学習環境のUD化など、特別支援教育等の研修に取り組むことで、生徒の特性に配慮した支援の仕方を学ぶとともに、多様性を認める学校風土を醸成する。

- ② キャリア教育の推進
 - ・「勤労留学」「進路講演会」「マナー講座」「校内ハローワーク」等、キャリア教育に関わる取組を推進することで、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲や態度、能力の育成を図る。
 - ③ 奉仕の精神の醸成
 - ・JRC活動や防災部活動、地域貢献活動に取り組むことで、社会貢献意識や奉仕の精神の育成を図る。
- 3 文化的で教養のある学校づくりで、豊かな人間性を（「未来を拓く子どもの育成」等を活用して）
- ① 文化的活動の活性化
 - ・日本の伝統文化学習、芸術・表現活動、文化系部活動等の文化的活動の充実を図ることで、文化・芸術への興味・関心を高めるとともに、芸術表現の美しさや共同体験の楽しさなどを味わわせる。
 - ② 特別活動の充実
 - ・学校行事・学級活動等の特別活動や部活動の充実を図ることで、集団としての達成感・成就感を高め、個々の生徒の自己実現を図る。
 - ③ 環境美化活動の充実
 - ・「緑のカーテン」「地域清掃」等学校環境の美化活動を通じて、SDG's への意識の向上を図りながら、文化的な教育環境を整備する。
- 4 生徒（生活・進路）指導を通して、心と体の成長を支える教育を
- ① 生活指導（「社会生活で通用する」態度・習慣を）
 - ・信頼関係を基盤に ……生徒「認め・励まし・褒め、支える」、保護者「共に育てる」
 - ・軸をつくる指導を ……「時間・あいさつ・みだしなみ」、「規範意識」、「自尊感情」
 - ・組織的な対応で ……「共通理解・共同実践」、「早期発見・早期対応」
 - ② 進路指導（「社会で働いていく」ための生き方指導を）
 - ・キャリア教育の視点で…「基礎的・汎用的能力の育成」
 - ・軸をつくる指導を ……「望ましい勤労観・職業観」
 - ・組織的な対応で ……「進路・学習部が中心となり」、「発達段階に応じ」、「系統的・計画的に」

VI 組織・運営

1 円滑な適切な学校運営

- ① 校務分掌に基づき、組織的な運営を行う。
- ② 円滑な運営のため、主幹・主任は所管分掌等の進行管理、状況把握・確認を行う。
- ③ 「報告・連絡・相談」、「確認・報告」を徹底し、より適切な学校運営に努める。

2 研究・研修

- ① 課題意識に基づき、校内研修等を活用して教科等の指導力の向上を図る。
- ② ライフステージに応じ、OJTにより教員としてのスキルの向上を図る。

3 保護者・地域との連携

- ① 適切な情報提供や日頃の電話連絡等により、相互理解が深まるよう努め、保護者との信頼関係を築く。
- ② 地域人材の活用や地域行事への参加など、学校教育活動と関連させることで、地域との連携関係を築く。

4 サービスの厳正

- ① 法令順守、勤務の厳正によるサービス規律の確保
- ② サービス研修の月1回実施等による体罰等のサービス事故防止

5 危機管理

- ① 「命を守る」という観点に立ち、緊急事態発生時の体制を確立する（事件・事故、災害、衛生管理、学習指導、生徒指導、薬品管理、対外折衝等）。
- ② 生徒の個人情報の管理、学校事務の処理等については細心の注意を払い、適切に行う。